

第23回日本認知症ケア学会大会
2022.06.18-09.30

WEB発表



演題番号

PW—136

認知症症状進行予防効果一考察

～心が動かされるその時～

渡邊美香(GH長)・林さよ子(CM)・濱田佳織(CW)

社会福祉法人 まり福祉会 まりホーム内海

発表にあたり、利用者の個人情報とプライバシーの保護に配慮し、家族から口頭と書面にて同意を得た。

著作権者：一般社団法人日本認知症ケア学会 / 複製・頒布を禁じます

本書の全部または一部を著作権法の定める範囲を超えて無断複製等すると、10年以下の懲役または一千万円以下の罰金に処せられることがあります。

はじめに

- 当ホームは四季折々に表情を変える瀬戸内海沿いに位置する環境豊かな地域に佇んでいます。地域住民や馴染みの方々との関係性を築きながら、穏やかな生活環境を提供しています。医療連携により安心した生活が送られる様、スタッフもサービスの質向上に繋がる様スキルアップしています。
- 施設入居後も馴染みの方との関係を築いていく為の工夫を実施
- 簡易知能評価スケールや脳幹刺激運動を取り入れて経過観察をした
- それぞれに心地よいと感じる人的環境と物的環境を生活に取り込んだ

それぞれの方に、心地よいと感じる 『幸せワード・行動』を引き出す目的と方法

目的

- 新たな生活環境に慣れる為のコミュニケーションツールとして活用
- これまでの馴染みの人との継続した関係性がもたらす認知症状の緩和
- 生活歴や職業歴から、習慣化していた事を引き出し、社会参加の維持

引き出す方法

- 本人とその方を取り巻く馴染みの方との日常生活上のコミュニケーションやケアから引き出す

認知症症状・機能的状態の経過

実施項目

実施内容

① ADL

半年毎にアセスメント実施 → 現状把握
→ ケアプラン反映

② HDS-R

入居時(入居前)実施
→ 入居後(5年未満では数値変化みられず
5年以上経過した人では個人差があるが
あまり変化がみられなかった)

③ 本人の意思で行動 に移るまでの様子

経過記録より様子把握

④ 脳幹刺激運動

腸内環境の様子や脳の損傷部位を把握

⑤ 集中力について

認知症度による差を確認
大人の塗り絵・パズル・スクラッチアート

集中力効果の検証

新規導入したレクリエーション

DVD音楽に合わせたリズム体操

はめ込みパズル

スクラッチアート



主観的評価結果

入浴拒否の
あった入居者



気持ちよく入浴している

水分摂取されたがらない
入居者



介助は必要ではあるが
必要水分量は摂取できている

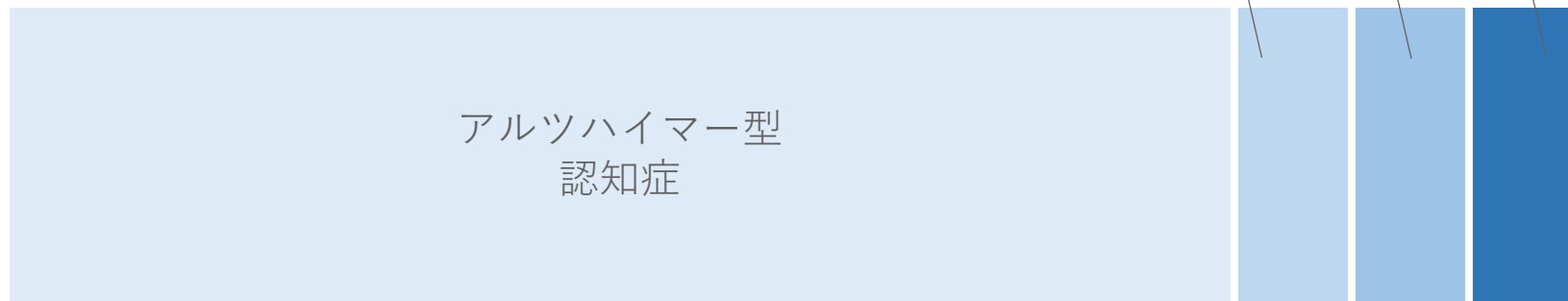
引きこもりがちで
横になっている時間が
ほとんどだった入居者



生活スタイルを形成でき
活気ある生活を送られている

課題

当ホームの認知症 タイプ別割合



認知症発症後、10年以上経過
→寝たきりの入居者は1割に満たない



写真の掲載については本人・家族の同意を得ています。

まとめ

- ”幸せワード・行動”の活用により、入居者は、ホーム生活に活気を持ち、新たな人生のページに、ワクワクする記事を書き込む事ができる様になった。

テーラーメイドケア

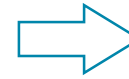
- 心に響く素材探しに専念する事で馴染みの方との繋がりが自然に構築される様になっていた
- 特別なアイテムや、”幸せワード・行動”の活用により認知症予防や改善に繋がられている。
- これらの取組により、笑顔で明るい日常生活を送る事が出来るようになったと考える。



認知症発症要因・心に寄り添うケア

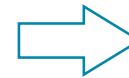
馴染みの方との死別や離別
全体の8割

- 誰かのために食事を
作らなくなった
- 一緒に楽しめる相手が
いなくなった
- 誰かのお世話をする
必要がなくなった



失業が要因
3割

- 何をしたらいいのか
わからない
- 居場所がない



その他
(病気他)

- 自分でできていたことが
できなくなった



役割が無くなって
しまった心の喪失感

認知症発症要因・心に寄り添うケア

- 誰かのために食事を
作らなくなった

馴染み

幸せワード：行動と共に・・・

って
喪失感

失業が要因
3割

- わからない
- 居場所がない



その他
(病気他)

- 自分でできていたことが
できなくなった



ご清聴ありがとうございました

